

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学部 教育 科目	学科専門 教育科目	物質科学	化学基礎	2前	2		1						
			有機化学	3後	2								1
			無機固体化学	3後	2		1						
			半導体物理学	2後	2								
			固体物理学	3前	2								1
			電気化学	3前	2		1						
			材料科学概論	2後	2		1						
		小計(7科目)	—	0	14	0	2	0	0	0	0	3	
	地学	地学概論	2後	2								1	
		地球物理学A	3前	2		1							
		地球物理学B	3後	2		1							
		宇宙物理学A	3前	2			1					1	
		宇宙物理学B	3後	2			1					1	
	小計(5科目)	—	0	10	0	1	1	0	0	0	2		
	卒業研究	卒業研究	4通	4			10	4	2	0	0		
		小計(1科目)	—	4	0	0	10	4	2	0	0	0	
合計(183科目)			—	31	276	0	10	4	2	0	0		
卒業要件及び履修方法													
理工学部数理・物理サイエンス学科の卒業要件は、本課程に4年以上在学し、全学共通教育科目〔初年次教育科目1単位、スキル教育科目及び外国語教育科目(英語4単位(必修科目2単位を含む)、日本語スキル2単位、情報スキル2単位を含む。〕から8単位以上、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目及び特別課題教育科目から14単位以上、健康とスポーツから1単位以上を含む。〕24単位以上及び学部教育科目(理工系教育園科目及び学科専門教育科目)を必修・選択必修科目を含めて80単位以上(卒業研究4単位を含む)、並びに自由に選択する科目を合わせて、合計124単位以上を修得すること。 なお、学部教育科目の選択科目のうち、下記の「選択必修科目カテゴリ1」から15単位以上、「選択必修科目カテゴリ2」から5単位以上を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期)、4年次は20単位) 「選択必修科目カテゴリ1」※()内は単位数 代数学(2)、代数学演習(1)、集合と位相(2)、集合と位相演習(1)、解析学(2)、解析学演習(1)、応用解析学A(2)、応用解析学演習A(1)、応用解析学B(2)、応用解析学演習B(1)、幾何学(2)、幾何学演習(1)、確率論(2)、確率論演習(1)、応用数理学(2)、物理数学(2)、熱力学(2)、熱力学演習(1)、力学(2)、力学演習(1)、電磁気学(2)、電磁気学演習(1)、振動と波動(2)、統計力学(2)、統計力学演習(1)、量子力学Ⅰ(2)、量子力学演習Ⅰ(1)、量子力学Ⅱ(2)、量子力学演習Ⅱ(1) 「選択必修科目カテゴリ2」※()内は単位数 数値計算演習(1)、先端数理・物理サイエンス(2)、数理科学講読(1)、数理サイエンス総合講義(2)、物理学実験(2)、物理科学実験A(2)、物理科学実験B(2)													

【令和6年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学部 教育 科目	学科専門 教育科目	物質科学	化学基礎	2前		2		1					
			有機化学	3後		2							1
			無機固体化学	3後		2		1					
			半導体物理	2後		2							1
			固体物理学	3前		2							1
			電気化学	3前		2		1					
			材料科学概論	2後		2		1					
			小計(7科目)	—	0	14	0	2	0	0	0	0	3
	地学	地学概論	2後		2							1	
		地球物理学A	3前		2		1						
		地球物理学B	3後		2		1						
		宇宙物理学A	3前		2		1	0				1	
		宇宙物理学B	3後		2		1	0				1	
		小計(5科目)	—	0	10	0	2	0	0	0	0	2	
			卒業研究	4通	4			12	3	1	0	0	
			小計(1科目)	—	4	0	0	12	3	1	0	0	0
合計(183科目)				—	31	275	0	12	3	1	0	0	
卒業要件及び履修方法													
理工学部数理・物理サイエンス学科の卒業要件は、本課程に4年以上在学し、全学共通教育科目〔初年次教育科目1単位、スキル教育科目及び外国語教育科目(英語4単位(必修科目2単位を含む)、日本語スキル2単位、情報スキル2単位を含む。〕から8単位以上、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目及び特別課題教育科目から14単位以上、健康とスポーツから1単位以上を含む。〕24単位以上及び学部教育科目(理工系教育園科目及び学科専門教育科目)を必修・選択必修科目を含めて80単位以上(卒業研究4単位を含む)、並びに自由に選択する科目を合わせて、合計124単位以上を修得すること。 なお、学部教育科目の選択科目のうち、下記の「選択必修科目カテゴリ1」から15単位以上、「選択必修科目カテゴリ2」から5単位以上を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期)、4年次は20単位) 「選択必修科目カテゴリ1」※()内は単位数 代数学(2)、代数学演習(1)、集合と位相(2)、集合と位相演習(1)、解析学(2)、解析学演習(1)、応用解析学A(2)、応用解析学演習A(1)、応用解析学B(2)、応用解析学演習B(1)、幾何学(2)、幾何学演習(1)、確率論(2)、確率論演習(1)、応用数理学(2)、物理数学(2)、熱力学(2)、熱力学演習(1)、力学(2)、力学演習(1)、電磁気学(2)、電磁気学演習(1)、振動と波動(2)、統計力学(2)、統計力学演習(1)、量子力学Ⅰ(2)、量子力学演習Ⅰ(1)、量子力学Ⅱ(2)、量子力学演習Ⅱ(1) 「選択必修科目カテゴリ2」※()内は単位数 数値計算演習(1)、先端数理・物理サイエンス(2)、数理科学講読(1)、数理サイエンス総合講義(2)、物理学実験(2)、物理科学実験A(2)、物理科学実験B(2)													

【令和5年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学部 教育 科目	物質 科学	化学基礎	2前		2		1					
		有機化学	3後		2							1
		無機固体化学	3後		2		1					
		半導体物理	2後		2							1
		固体物理学	3前		2							1
		電気化学	3前		2		1					
		材料科学概論	2後		2		1					
	小計(7科目)		—	0	14	0	2	0	0	0	0	3
	地球 科学	地学概論	2後		2		1					1
		地球物理学A	3前		2							
		地球物理学B	3後		2		1					
		宇宙物理学A	3前		2		1	0				1
		宇宙物理学B	3後		2		1	0				1
	小計(5科目)		—	0	10	0	2	0	0	0	0	2
	卒業研究		4通	4			12	2	2	0	0	0
	小計(1科目)		—	4	0	0	12	2	2	0	0	0
合計(183科目)			—	31	275	0	12	2	2	0	0	
卒業要件及び履修方法												
理工学部数理・物理サイエンス学科の卒業要件は、本課程に4年以上在学し、全学共通教育科目(初年次教育科目1単位、スキル教育科目及び外国語教育科目(英語4単位(必修科目2単位を含む)、日本語スキル2単位、情報スキル2単位を含む。))から8単位以上、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目及び特別課題教育科目から14単位以上、健康とスポーツから1単位以上を含む。)24単位以上及び学部教育科目(理工系教育園科目及び学部専門教育科目)を必修・選択必修科目を含めて80単位以上(卒業研究4単位を含む)、並びに自由に選択する科目を合わせて、合計124単位以上を修得すること。												
なお、学部教育科目の選択科目のうち、下記の「選択必修科目カテゴリー1」から15単位以上、「選択必修科目カテゴリー2」から5単位以上を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期)、4年次は20単位)												
「選択必修科目カテゴリー1」※()内は単位数 代数学(2)、代数学演習(1)、集合と位相(2)、集合と位相演習(1)、解析学(2)、解析学演習(1)、応用解析学A(2)、応用解析学演習A(1)、応用解析学B(2)、応用解析学演習B(1)、幾何学(2)、幾何学演習(1)、確率論(2)、確率論演習(1)、応用数理学(2)、物理数学(2)、熱力学(2)、熱力学演習(1)、力学(2)、力学演習(1)、電磁気学(2)、電磁気学演習(1)、振動と波動(2)、統計力学(2)、統計力学演習(1)、量子力学Ⅰ(2)、量子力学演習Ⅰ(1)、量子力学Ⅱ(2)、量子力学演習Ⅱ(1)												
「選択必修科目カテゴリー2」※()内は単位数 数値計算演習(1)、先端数理・物理サイエンス(2)、数理科学講読(1)、数理サイエンス総合講義(2)、物理学実験(2)、物理科学実験A(2)、物理科学実験B(2)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
- その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・大嶋晃敏准教授の教授昇格により、専任教員等の配置について「スタートアップセミナー」は「教授4」から「教授5」に、「物理科学実験A」は「教授1」から「教授2」に、「宇宙物理学A」は「教授1」に、「宇宙物理学B」は「教授1」に変更。
- ・「自己開拓」を「自己開拓A」に科目名称変更し、科目区分を全学共通教育科目のキャリア教育科目からリベラルアーツ教育科目に変更。
- ・教育内容充実のため、「日本語スキルA」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更。
- ・外国語教育科目の兼任・兼任教員の変更に伴い、実人数を「12」から「14」に変更。
- ・教育内容充実のため、「数学の思考法」の兼任・兼任を削除、「教授1」を追加。
- ・全学共通教育科目のリベラルアーツ教育科目に「自己開拓B」を追加（新設）。
- ・教育内容充実のため、「健康科学」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更。
- ・岡田信二准教授の教授昇格により、専任教員等の配置について「放射線科学」は「教授1」から「教授2」に、「物理科学実験B」は「教授2」から「教授3」に変更。
- ・前述2名の教授昇格により、専任教員等の配置について「サイエンスゼミナール」は「教授10」から「教授12」に、「卒業研究」は「教授10」から「教授12」に変更。

【令和6年度】

- ・山崎勝也講師の准教授昇格により、専任教員等の配置について「実験計測学概論」「放射線科学」「物理学実験」「物理科学実験B」は「准教授1」に、「サイエンスゼミナール」「卒業研究」は「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・開講クラス数見直しのため「英語スキルⅠ」「英語スキルⅡ」「英語スキルⅢ」「英語スキルⅣ」の兼任・兼任教員を「2」から「1」に変更。
- ・開講クラス数見直し及び担当者変更のため「日本語スキルA」の兼任・兼任教員を「3」から「1」に変更。
- ・担当者変更のため「数学の思考法」の担当を「教授1」から「兼任・兼任教員1」に変更。
- ・教育内容充実のため「生物と環境」の兼任・兼任教員を「1」から「2」に変更。
- ・教育内容充実のため「物理学実験」の兼任・兼任教員を「1」から「4」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
16 科目	167 科目	0 科目	183 科目	16 科目 []	167 科目 [+1、△1]	0 科目 []	183 科目 [+1、△1]	令和5年 「社会人基礎知識」廃止、「自己開拓B」追加(新設)

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	社会人基礎知識	2	2		選択	科目区分の体系的な見直しのため。 代替措置：無
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「社会人基礎知識」の科目は、当初学生のキャリア支援を目的とした科目であったが、現在では充実したキャリア支援プログラムが2年時以降に実施されているため、科目区分の体系的な見直しにより廃止するものである。よって学生への影響はないと考える。

本調査に係る学生に対しては、履修申告やオリエンテーションにおいて廃止後のカリキュラムを周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{183} = \boxed{0.54} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。